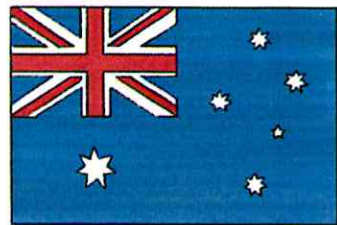


平成26年度



# 第5回 大垣市小・中学生 オーストラリア・グレンアイラ市研修派遣団





## 第5回大垣市小・中学生オーストラリア・グレンアイラ市研修派遣団 日程表

派遣期間： 平成26年8月19日（火）～8月26日（火）【8日間】

派遣人数： 11人（引率者2人 小中学生9人）

	月 日	現地時間	日 程
1	8月19日 （火）	10:40 11:00 13:00 15:15 16:25 19:50	スイトピアセンター集合 大垣市発、バスにて中部国際空港へ 中部国際空港着 中部国際空港発（日本航空JL3084便） 成田国際空港着 成田国際空港発（日本航空JL771便）  機内泊
2	8月20日 （水）	6:35 8:30 10:05 11:00 14:30-15:30 16:00-17:00	シドニー空港着 シドニー空港発（カンタス航空QF417便） メルボルン空港着 到着後、バスでグレンアイラ市へ移動 グレンアイラ市役所到着 昼食と休憩（市役所にて） コーフィールド小学校訪問 歓迎レセプションとホストファミリーと対面 （市役所にて）  ホームステイ
3	8月21日 （木）	終日	ベントレー中学・高等学校訪問  ホームステイ
4	8月22日 （金）	9:00 10:00 11:00 12:00 13:00 14:30 15:30	ベントレー中学・高等学校集合、出発 ユーレカスカイデッキ（展望台） フェデレーションスクエア（観光案内所） 昼食（フェデレーションスクエアにて） セントポール大聖堂、州議事堂、カールトン庭園、博物館を見学 メルボルン市内出発 ベントレー中学・高等学校到着  ホームステイ
5	8月23日 （土）		各ホストファミリーと過ごす  ホームステイ
6	8月24日 （日）		各ホストファミリーと過ごす  ホームステイ
7	8月25日 （月）	7:00 9:00 10:25	グレンアイラ市内集合、ホストファミリーとお別れ メルボルン空港へ メルボルン空港発（カンタス航空QF418便） シドニー空港着 シドニー市内見学（オペラハウス、ハーバースブリッジ、ロックス）  メトロ ホテル シドニー セントラル泊
8	8月26日 （火）	5:00 8:15 17:05 18:25 19:35 20:30 22:00	ホテル発 シドニー空港発（日本航空JL772便） 成田国際空港着 成田国際空港発（日本航空JL3087便） 中部国際空港着 バスにて大垣へ 大垣到着、解散

第5回 大垣市小・中学生オーストラリア・グレンアイラ市研修派遣団  
 団員名簿

派遣期間：平成26年8月19日（火）～8月26日（火）

No.	役名	氏名	性別	学校名・学年
1	団長	かわい としお 河合 鋭夫	男	南中学校 校長
2	総務兼 通訳	のむら かな 野村 加奈	女	江並中学校 教諭
3	団員	しち まほ 志知 真帆	女	日新小学校 6年
4	団員	なかじま あすか 中島 明日香	女	中川小学校 6年
5	団員	ひろせ あかね 廣瀬 朱音	女	静里小学校 6年
6	団員	むらた じゅんな 村田 純菜	女	綾里小学校 6年
7	団員	かわむら ゆきの 河村 雪乃	女	東中学校 2年
8	団員	さわだ たいが 澤田 大雅	男	東海中学校 2年
9	団員	なかお ゆり 中尾 優里	女	南中学校 2年
10	団員	にしわき まお 西脇 茉生	女	赤坂中学校 2年
11	団員	まつもと かのん 松本 伽音	女	江並中学校 3年





**団長 河合 鋭夫**



**総務兼通訳 野村 加奈**



**団員 志知 真帆**



**団員 中島 明日香**



**団員 廣瀬 朱音**



**団員 村田 純菜**



**団員 河村 雪乃**



**団員 澤田 大雅**



**団員 中尾 優里**



**団員 西脇 菜生**



**団員 松本 伽音**



# 第5回大垣市小・中学生オーストラリア・グレンアイラ市研修派遣を終えて

大垣市立南中学校 河合 鋭夫

## 1 はじめに

今回の研修は、8月19日から8月26日（7泊8日）までの日程で実施され、市内の小学生4名と中学生5名が参加しました。子供たちは、この研修を通して国際感覚の素地を身に付けるとともに、両市の友好の絆を深めるための人材となることができたのではないかと感じています。その具体的な内容については、各団員の文章から読み取っていただけたらと思います。

## 2 広大なオーストラリア

広大な自然の豊かさを誇るオーストラリア。その地を訪れたものは誰もが感じるのだと思います。しかし、オーストラリアは、自然の広大さだけではありません。



今回の研修では、豊かな自然の広大さに勝るとも劣らぬオーストラリアの人々の広く豊かな心に触れることができました。

多民族国家であるオーストラリアの人々は、互いの違いを自然な形で受け止め、ありのままに対応する力が身に付いていると感じました。国際社会の中で生きていく子供たちにとって、互いの違いを自然な形で受け止め、共生していく力はとても重要です。子供たちは、この研修を通して、そうした力の大切さを実感することができました。

子供たちにとって今回の研修の体験は、国際社会の中で生きていく上での大きな力となり、自分の将来の生活を切り拓く力に繋がっていくことでしょう。引率者として私は、そうなることを強く願っています。

## 3 研修について（アラカルト）

### ◇ベントレー中学・高等学校でのひとコマ

この学校では、研修に参加した子どもたちも現地の子供たちといっしょに授業に参加しました。その様子を参観していた私は、飛び入りで日本語の授業に参加させていただきました。私の日本語による自己紹介（名前、出身地、年齢、家族構成等々）を子供たちがどれだけ聞き取れているのかを担当の先生が子どもたちに質問する形式で行いました。年齢や名前は聞き取れていたのですが、家族構成で、孫がいることを聞き取るにはかなり抵抗があったようでした。ちなみに、最初に私の名前を聞き取った生徒は、「かわい・としお」ではなく、「こわい・としお」と答えたことに思わず笑ってしまいました。



### ◇アフタースクールでのひとコマ

私が研修中に食べた料理の中でのお奨めは、チキンパルメジャーナ（鳥肉の表面をこんがり焼いたものにベーコンとチーズがたっぷりとのっているもの）とスブラキ（ギリシャ料理でお好み焼き風のもの）です。そして、オーストラリアフットボールを観戦しながら食べるミートパイは絶品でした。

## 4 おわりに

今回の研修にあたり、大垣国際交流協会をはじめベントレー中学・高等学校やグレンアイラ市関係者など多くの方々のご協力をいただきました。研修団を代表して厚くお礼を申し上げます。



## グレンアイラ市研修派遣を終えて

総務兼通訳 大垣市立江並中学校 野村 加奈

今回総務兼通訳としてこのグレンアイラ市研修に参加できたことを心から感謝します。日常ではできない経験や現地の方々の関わりを通して自分自身が学んだことの多い研修になりました。

大垣市とオーストラリアのグレンアイラ市の親交を深め、その架け橋になれるよう努めようと思い、旅立ちましたが、普段使わない英語を使ってコミュニケーションをとることは、その環境に慣れるまでは困難でした。しかし、コミュニケーションをとることは互いに共通言語を話すだけではないということ子ども達の姿を見ながら、そしてホームステイを体験して感じました。

初日、セントレア、成田空港、シドニー空港、メルボルン空港とほぼ1日かけての移動になりました。到着したときには景色はもちろん、季節も日本の夏からオーストラリアの冬に一変しました。期待よりも緊張や不安が最初はありましたが、ツアーコンダクターの方や現地の通訳の方、そしてホストファミリーとグレンアイラ市の職員の方々の暖かい出迎えにより、それまでの苦労や不安は払拭されていきました。

歓迎レセプションを無事に終えて向かった先はコーフィールド小学校でした。ここで驚いたことは、着いてすぐに生徒が次々に寄って来て日本語の敬語を使って挨拶や自己紹介をしてくれたことです。校舎内の表示も日本語表記は当然で、授業も日本人教師が全て日本語のみを使って1時間行う算数や音楽の教科指導など日本語教育に大変力を入れてみえる現場を見て感動しました。

そして次の日からは早速、ホストファミリーの通うベントレー中学・高等学校の訪問と授業参観が始まりました。学校の施設だけでなく、子ども達は日本語、算数、美術、体育と様々な教科の授業と一緒に参加させていただきました。その中で、どの先生も日本から来た私たちが主体となって授業を進める場を設定してくださり交流ができるよう配慮してくださいました。日本では見られない瞑想をする授業や脚本を考えて演劇をする授業や自動車のつくりや整備の仕方を学ぶことができるような施設などの見学を通して日本の学校と比較しそれぞれのよさを学ぶことができました。また、日本人の先生方ともお話を聞く機会があり、大変勉強になりました。

一日の学校生活を終えて、私たちはそれぞれのホストファミリーの家へ帰りました。食事をしたり話しをしたりして団欒をする時間が子ども達も私も疲れをとり、ほっとできる瞬間になっていったのは、本当の家族のように私たちを大切に、心からのおもてなしをしてくださったからだと思いました。休日には、各家庭でフットボール観戦、動物園、ビーチなど家族と色々な場所へ連れて行ってくださったので、楽しい思い出をそこでも作ることができました。ホストファミリーの皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。家族の一員として共に生活をしていく中で毎日の習慣や文化の違いだけを学ぶだけでなく、相手と向き合い、相手を理解しようと努めることがコミュニケーションを図る上では大切なのだと教えていただきました。このように感じることは、Karen 校長先生をはじめ、私たち団員に最後まで親切にそして家族同様に受け入れてくださったホストファミリーの皆さんの支えがあったからだと思います。

今後この研修を通して学んだことや経験を生かし、団員一人ひとりが今後の生活の中で実践していけるようにしていきたいです。

